

埼玉の偉人について

校長 館岡 靖哲

月日が経つのも早いもので、今年も残り1ヶ月となりました。朝晩の寒さも一段と厳しくなり、体調を崩す生徒が増えてきております。今年はインフルエンザ等の感染症の流行も長引いています。ご家庭においても、引き続き子どもたちの健康管理をお願いいたします。

11月1日(土)に実施した合唱コンクールでは、どのクラスも素晴らしい歌声を披露してくれました。特に3年生は、合唱にかける思いと、本番の完成度の高さには感動しました。審査員の方々からお褒めの言葉をいただきました。最優秀賞に輝いたクラスは、与野東中代表として11月19日(水)の市合同音楽祭に参加し、ここでも素晴らしい歌声を披露してくれました。

さて、今年度も3年生を対象とした、1人約15分から20分程度の校長面談を実施しています。本校は生徒数が多いため、学校地域連携コーディネーターの宮城先生(元小学校長)の協力を得ての実施です。私は面談の終盤に、「埼玉県出身の偉人さんを紹介してください」と質問することがあります。残念ながら、答えられる生徒が少ないのが現状です。そこで、深谷出身の「渋沢栄一」について質問をすると、名前は知っているが業績は…、との回答が大半です。こんな時、いつのまにか面談から社会科の授業になることもしばしば。生徒には知っておいてほしい人物ですので、つつい熱が入ります。そういえば、11月11日(火)の給食時の放送で、担当していた報道委員会の生徒による、次のような話が記憶に残っています。

「今日は渋沢栄一の命日です。一万円札の肖像画にもなり、大河ドラマの主人公にも選ばれた、明治の実業家です。栄一が好んで食していたのが、今日の献立の“煮ぼうとう”です。今日は多くの方が、深谷の郷土料理“煮ぼうとう”を食べて遺徳をしのんでいます」

この放送は、私も勉強になりました。渋沢栄一は、日本で初めての銀行など約500ものさまざまな会社を設立・育成し、日本の経済発展の基礎を固めました。そして、今でも栄一の教えや考えが、様々な企業で受け継がれ大切にされています。私も栄一の残した言葉を校内に掲示し、生徒にも紹介しています。ここでは、栄一の座右の銘を紹介させていただきます。

『吾日に吾身を三省す』

私は毎日、自分の行いについて何回となく反省している。

その反省の内容は、第一に、人のためを考えて心を尽くさなかったのではないか、友人と接していて信義に欠けるようなことをしなかったか。学んでいて、まだよく身につけていないのに、人に教えていないか。こうした反省によって私は日々成長していきたい。

時代と共に、私たちは自らを省みることをしなくなったとも言われます。だからこそ、今一度この言葉をかみしめることが必要なのだと思います。一日の行動を振り返って、自分は人のために最善を尽くしたか、友人を裏切る言動をしていないか、知ったかぶりをして同僚や知人に話をしていないか。こうした振り返りが、自らを成長させる糧になると栄一は教えてくれています。令和7年もあとわずか。1年間の自らを省みるにもいい時期ですね。

【埼玉の三偉人について(補足)】

埼玉県では、2005年より本県出身のいわゆる偉人の顕彰をはじめ、その中から特に三人を選び出し、「三偉人」として県民に紹介しています。渋沢栄一の他2名は次の通りです。

○荻野吟子：日本で最初の公認女性医師です。女性が医師になることが困難な時代に、その道を切り開きました。

○塙保己一：江戸時代に活躍した盲目の国学者です。膨大な古典籍を収集・編纂し、大文献集『群書類従』を完成させました。ヘレン・ケラーが尊敬した人物としても知られています。